

編集後記

金沢大学50年史編纂委員会委員長

橋本 哲哉

1999（平成11）年5月29日、金沢大学開学50周年の記念式典が盛大に行われた。本来ならば当日にこの『金沢大学50年史』を披露すべきであったが、編集作業が思うに任せず、2か月遅れとなってしまったことをまずお詫びしたい。

金沢大学50周年記念事業を進めるために、岡田晃学長を委員長とする同事業委員会がスタートしたのは1996年5月17日のことであった。その重要な事業のひとつとして『金沢大学50年史』の編纂が決定され、金沢大学50年史編纂委員会も設置された。編纂のまとめ役として、附属図書館長を勤めていた橋本が委員長の大役をおおせつかることになった。そして7月30日に開催された同編纂委員会において、同50年史通史編・部局編2冊を刊行すること、おおよそ次のような基本的考え方での編集することなどを確認した。

- 1 『金沢大学50年史』（以下、大学史と略）は新制大学創設50年の区切りに刊行されるのであるから、他大学の同類の企画と比較しても見劣りしない歴史書として、編纂される必要がある。
- 2 金沢大学は前史の伝統を受け継ぎ、この間大学院を中心とした研究教育の高度化、文系学部の改組拡充、総合移転、教養部改組等の大きな課題に取り組み、発展かつ変貌して北陸の基幹総合大学を目指してきた。そうした大学全体の歴史を客観的に通史的に捉え、また多面的に考察して読みごたえのある大学史とする（下巻としての通史編）、あわせて、全学的課題に対する各部局の対応も1巻としてまとめる（今回上巻として刊行する部局編）。
- 3 大学史ではあるが、地域（この場合、狭く金沢に限定せず、石川県、北陸地域、日本、さらには環日本海・世界も視野に入れる）に開かれた大学として、その自己点検・評価も行うという視点で編纂する。
- 4 前身校である四高・金沢医科大学・高等工業・石川師範などの歴史も重視し、編集する。
- 5 大学史として単に記録にとどめるだけの目的にこだわらず、広く卒業生・市民にも読みやすい具体的な叙述につとめ、ヴィジュアルな構成、人名索引作成にも配慮する。
- 6 編集に当たっては本学関係者に広く協力を仰ぎ、文書資料収集はもちろんのこと、関係者のヒアリングや執筆依頼も行なう。

以降3年間の編纂事業の成果として、ここに部局編1冊を刊行することとなった。金沢大学の歴史書としては、『金沢大学十年史』以来のものである。

この部局編編集にあたっては部局毎に編集委員会を設置していただき、その責任のもとに執筆をお願いした。各部局の編集委員、執筆関係者の方々のご苦勞に心からお礼を申し述べる。基本的な編集の枠組み、章立てなどは実務的に用意したが、原稿内容に関しては「部局自治」を押し通したつもりである。とくに各編集委員の勞に報いるため、その氏名（敬称略）・所属を列記する。守屋以智雄（文学部）、深川明子（教育学部）、深谷松男・櫻井利夫（法学部）、小林昭（経済学部）、本淨高治（理学部）、大島徹（医学部医学科）、天野良平（医学部保健学科）、佐藤保（医学部附属病院）、正宗行人（薬学部）、石田眞一郎（工学部）、高橋守信（がん研究所）、畑安次（教養教育機構）、澤野等（附属小学校）、中野文夫・梶井重明（附属図書館）

上述の編集方針の目的が果たせたかどうかも含めて、その評価は通史編の刊行を待つて総合的に行っていただければ幸いである。その通史編は何とか1年後には上梓したいと考えて、目下その作業をすすめている。

最後に、この『金沢大学50年史』にさまざまなご支援をいただいたことへの感謝の意を表したい。岡田学長をはじめとした全学的なバックアップ、金沢大学創立50周年記念事業後援会（福光博会長）のご援助をここに特記する。また、この金沢大学50年史編集の実務を担当していただいた江森一郎（教育学部）・中野節子（文学部）・林宥一（経済学部）・古畑徹（文学部）の諸先生には度々の委員会に加えて、原稿の調整、校正など多大な尽力を願った。さらに、その編纂事業のすべての仕事を支えてくださった編纂室員の酒井誠一・谷本宗生、佐藤ゆかり・志田真弓・中川麻理子・長野栄俊・松岡信一郎の方々に、金沢大学50周年記念事業委員会の一員としてお礼を述べる。あわせて本巻の刊行を共に祝し、残り通史編の協力もお願いしたいと思う。

1999（平成11）年6月

金沢大学50年史 部局編

平成11年6月30日 発行

編 集 金沢大学50年史編纂委員会

事務局 金沢大学庶務部庶務課

〒920-1192 金沢市角間町
電話 076-264-5010

発 行 金沢大学創立50周年記念事業後援会

印刷 株式会社橋本確文堂
金沢市増泉4-10-10
